当座借越

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　当座借越の仕組みを理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「当座預金」勘定（資産）

「当座借越」勘定（負債）・「借入金」勘定（負債）

（1）当座借越とは？

通常は当座預金の残高を超える金額の小切手を振り出すことはできません。しかし、銀行と当座借越契約（とうざかりこしけいやく）を結んでおけば、決められた借越限度額（かりこしげんどがく）まで当座預金の残高を超えて小切手を振り出すことができます。この当座預金の残高を超えて小切手を振り出すことを**当座借越**（とうざかりこし）といいます。当座借越は銀行からの一時的な借入を意味します。

（2）会計処理

①　期中取引

期中取引において、当座預金口座の残高を超えて小切手を振り出した場合でも、「**当座預金**」勘定（**資産**）の減少として処理します。

②　決算整理

決算において、「当座預金」勘定（資産）が**貸方残高**になっていた場合、**負債**としての**当座借越**であることを意味しますので、「当座預金」勘定（資産）から、「**当座借越**（または**借入金**）」勘定（**負債**）に振り替えます。

③　次期期首（期首取引）

次期期首において、期中は「当座預金」勘定（資産）で処理するために、「**当座借越**（または**借入金**）」勘定（負債）の残高を、「**当座預金**」勘定（資産）に振り替えます。この仕訳は前期の決算整理仕訳の反対仕訳（逆仕訳）となりますので、**再振替仕訳**（さいふりかえしわけ）といいます。

例題　**当座預金残高は800円であった。取引銀行と当座借越契約を締結しており、借越限度額5,000円である。**

①　商品1,000円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

②　決算において、当座預金勘定の残高が貸方残高200円となっているので、当座借越勘定へ振り替える。

③　次期期首において、当座借越勘定の残高200円を、適切な資産の勘定へ振り替える処理を行う。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	**仕　　入**	**1,000**	**当座預金**	**1,000**

この結果、「当座預金」勘定（資産）は貸方残高200円となり、負債としての当座借越を意味します。

当座預金

借方	貸方
800	**1,000**
残高 200	

	借方科目	金額	貸方科目	金額
②	**当座預金**	**200**	**当座借越**	**200**

この結果、「当座預金」勘定（資産）は残高ゼロ、「当座借越」勘定（負債）は残高200円となります。

当座預金

借方	貸方
800	1,000
200	

当座借越

借方	貸方
残高 200	**200**

	借方科目	金額	貸方科目	金額
③	**当座借越**	**200**	**当座預金**	**200**

この結果、「当座預金」勘定（資産）は貸方残高200円となり、負債としての当座借越を意味します。また、「当座借越」勘定（負債）は残高はゼロとなります。

当座預金

借方	貸方
残高 200	**200**

当座借越

借方	貸方
200	200

例題　**決算にあたり、当座預金口座が当座借越700円となっているので、適切な勘定に振り替える。なお、当社は当座借越勘定を用いていない。**

決算において、「当座預金」勘定（資産）が貸方残高になっていた場合で「当座借越」勘定（負債）を用いていない場合には、「借入金」勘定（負債）に振り替えます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　座　預　金	**700**	**借　入　金**	**700**

現　金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　「簿記上の現金」の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「現金」勘定（資産）

（１）簿記上の現金

一般に現金とは硬貨及び紙幣という通貨（つうか）を指しますが、簿記上は金融機関ですぐに換金できるもの（**通貨代用証券**（つうかだいようしょうけん）といいます）も「**現金**」勘定（**資産**）で処理します。

通貨代用証券には例えば、以下のものがあります。

・他人振出小切手（たにんふりだしこぎって）：他人が振り出した小切手
・送金小切手（そうきんこぎって）：送金手段として銀行が発行する小切手
・郵便為替証書（ゆうびんがわせしょうしょ）：送金手段として郵便局が発行する証書

例題　**売掛金2,200円の回収として送金小切手を受け取った。**

送金小切手は簿記上の現金なので、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
現　金	**2,200**	**売　掛　金**	**2,200**

例題　**売掛金1,200円の回収として郵便為替証書を受け取った。**

郵便為替証書は簿記上の現金なので、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
現　金	**1,200**	**売　掛　金**	**1,200**

（２）他人振出小切手の処理

①　他人振出小切手を受け取った場合

現金という資産が増加しますので、**「現金」勘定（資産）の増加**として処理します。

例題　**商品2,000円を売り上げ、代金はA社振出小切手を受け取った。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　　金	**2,000**	**売　　　　　上**	**2,000**

②　受け取った他人振出小切手を当座預金口座に預け入れた場合

当座預金という資産が増加しますので**「当座預金」勘定（資産）の増加**として処理し、現金という資産が減少しますので**「現金」勘定（資産）の減少**として処理します。

例題　**昨日受け取ったA社振出小切手2,000円を当座預金に預け入れた。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　座　預　金	**2,000**	**現　　　　　金**	**2,000**

③　他人振出小切手を受け取り、直ちに当座預金へ預け入れた場合

他人振出小切手を受け取り（現金の増加）、直ちに当座預金に預け入れた（現金の減少）場合、現金の増加及び現金の減少として処理しないで、**「当座預金」勘定（資産）の増加**として処理します。

例題　**商品2,000円を売り上げ、代金はA社振出小切手を受け取り、直ちに当座預金口座へ預け入れた。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　座　預　金	**2,000**	**売　　　　　上**	**2,000**

この仕訳は以下の２つの仕訳を１つにまとめたものです。

現　　　　　金	2,000	/	売　　　　　上	2,000
当　座　預　金	2,000	/	現　　　　　金	2,000

④　他人振出小切手を支払手段として他人に渡した場合

他人振出小切手を受け取った時は「現金」勘定（資産）の増加として処理しますので、他人振出小切手を他人に渡して減少した場合、**「現金」**勘定（**資産**）の減少として処理します。

例題　**B社から商品2,000円を仕入れ、代金はA社振出小切手で支払った。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　　入	**2,000**	**現　　　　　金**	**2,000**

<小切手の処理のまとめ>

①　小切手の振出　=　当座預金の減少

②　他人振出小切手の受取　=　現金の増加

③　他人振出小切手の受取　+　ただちに当座預金に預入　=　当座預金の増加

④　他人振出小切手の譲渡　=　現金の減少

⑤　自己振出小切手の受取　=　当座預金の増加